



2010年2月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2010年2月
第78号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



目 次

漢点字の散歩（17）（岡田健嗣）	1
点字から識字までの距離（74）（山内 薫）	6
一言（岡田健嗣）	9
見果てぬ夢を（19）（山本優子）	11
東京漢点字例会報告とわたくしごと（木村多恵子）	13
東京漢点字学習会報告（菅野良之）	17
漢文のページ	21
漢点字講習用テキスト（初級編・第18回）	24
ご報告とご案内	25
編集後記（木下和久）	27

漢点字の散歩（十七）

岡田 健嗣

五 点 字



本稿では、〈点字〉をご存じない皆様も、点字をパターンとしてお受け止めいただければ充分です。点字で何が書かれているかを読み取る必要はありません。

2 ドイツ語点字（5）

まとめ

ここまでドイツ語点字について述べて来たが、本稿が依拠して来たのは、“Leitfaden der Deutschen Blinden-Vollschrift”及び“Kurzschrift”という二冊のテキストである。この二冊の書物に加えて、“Lese- und Übungsbuch der Deutschen Blindenkurzschrift”という点字版の読みの練習帳がある。これはドイツ語点字の初歩から二マス略字までをその段階を追って登場させて、その触読と使用の実地を習得させようというものである。点字の符号と使い方のルールを学んだとしても、実際にどのようなように使われるかは、使われている文章を読まなければ分からないからである。

この書物は、フランク王国の成立から二十世紀までのドイツの歴史を彩った、その時代の一人の人物に焦点を当てて記述されている。一人一人の人物に代表させながら、その時代を紹介する方式の読み物である。分量はごく短いものだが、私のようにドイツの歴史といえは、高校の世界史で習った程度の知識しかない者にとっては、読み通すだけで、案外博識になれるかもしれないものである。

その中から、「ヒンデンブルク」の項を次ページに引用して見たい。

これは点字書から引用するもので、アルファベットと点字符号の交じったものが、点字の文をそのまま写したものの（3ページ）である。もう一つ（4ページ）は、点字の略字を解放して、アルファベットに置き換えたものである。

ドイツ語点字では、大文字と小文字の区別をしない。ドイツ語では通常、行頭や“Satzpunkt”（ピリオド）の後の文字、そして名詞の頭の文字を大文字で表すことになっている。“Sie”は「貴方」、「sie」は「彼女」と読み分けるのも、動詞の格変化を見なくとも、大文字か小文字かの判別でできるようになっている。しかし点字では、大文字と小文字の区別はしない。

（英語でも同様である。）
そこで略字の解放文で、大文字にすべき文字を大文

字にしていけないという、基本的なミスを犯している懼れがある。それは私の力量不足によるのであって、ドイツ語点字の原文は、点字符号とアルファベットの交じった文のように、大文字と小文字の区別はしないのである。

例示する文にご紹介されているヒンデンブルクは、第一次大戦の英雄で、帝政崩壊後の共和国の二代目の大統領を務めた人物である。ヒトラーを首相に任命して、ワイマール共和国の崩壊を早めた人としても有名で、ここでは「歴史的汚点」と評価されている。

私は現在のフランス・ドイツの礎を築いたピピンやカール大帝の項の文章を引用したかったのだが、残念ながらそこには略字が使用されていないことと、また他の項で取り上げられている人物は私には馴染みが薄いことから、ヒンデンブルクの項を選択することにしたのである。

この二つの文を一見したところでは、分量的な相違は見出せないかもしれない。しかしそれは、アルファベットは半角で、点字符号は全角で表記されているからに他ならない。これを点字に置き換えて見れば、全てが同じ大きさの文字になって、略字交じりの方が、三割ほど少ないことが分かる。三割分量が少ないということは、触読する指の守備範囲が、単純計算で約三割増すことを意味する。視野が三割広がることを意味する。

ところで“Kurzschrift”の語は通常、「速記法」と訳される。確かにドイツ語点字を書く時にも、この略字を使うことで、より効率的に行えるはずである。その意味では「速記法」と受け止めてもよいのかもしれない。しかしこの開発の本来の目的は、触読を如何にスムーズに行うかという点に置かれていた。読み辛かった子音の並びや重母音、そして頻出する単語などを一つあるいは二つのマスで表すこと、そして自在な語の結合に耐えうる法則の構築は、如何に読むかという一点を目指したのである。そこで本稿では、“Kurzschrift”の訳語として、「略字法」を採用することにした。

このように英語にせよドイツ語にせよ、欧米の言語に位置づけられる点字は正しく文字であって、それぞれの言語の、息の長い研究と試行錯誤の結果として、一つの体系が構築されている。振り返って我が国の視覚障害者教育と触読文字の開発は、欧米の制度を輸入しただけの、極めて上辺だけの浅薄なものに留まっている。日本語を表記する文字の開発を忌避し、視覚障害者の漢字教育が無視されるというのが、現在実施されている「教育」なのである。そんな中で日本語の表記の研究に踏み込んだのが、唯一川上泰一先生だったのである。

なお引用のアルファベット文では、“sz”を“B”と、ウムラウトを“ö”を後置することで表した。



Hindenburg

Durch die Schlacht von Tannenberg befreite Hindenburg Ende August 1914 den größten Teil Ostpreußens von den Russen. Das machte den General zum volkstümlichsten Heerführer des ersten Weltkrieges (1914–1918).

Einfache Menschen suchen zu erklären, wie ein bis dahin unbekannter Offizier den Sieg über die feindliche Übermacht erringen konnte, und erzählten Folgendes:

Als General im Ruhestand reiste Hindenburg jeden Sommer nach Ostpreußen. In Königsberg ließ er sich eine Kanone ausleihen und erprobte mit ihr im Gelände der masurischen Seen und Sümpfe, wo das Geschütz durchkommen oder in Stellung gehen konnte. Er maß genau ab, wie tief es in den Schlamm einsank, und schrieb auf, wieviel Pferde benötigt seien, um es herauszuziehen. Einmal war es eine leichte, ein anderes Mal eine schwere Kanone. Alles zeichnete und notierte der General in eine Karte, besonders die Stellen, wo nicht einmal 20 Pferde eine Kanone herausbrachten. Im Herbst lieferte er dann jedesmal das Geschütz in Königsberg wieder ab und fuhr nach Hause. Auf diese Weise bereitete er sich auf die Schlacht vor, die unter dem Namen Tannenberg in die Geschichte einging.

Viele Jahre später entstand in der deutschen Öffentlichkeit eine Auseinandersetzung darüber, wer der eigentliche Sieger von Tannenberg sei, Hindenburg oder sein erster Gehilfe General Ludendorff. Der alte Herr, der seit 1925 Reichspräsident war, meinte, als er darüber befragt wurde: "Ich weiß es nicht. Wenn wir aber die Schlacht verloren hätten, wäre ich daran schuld gewesen."

Anfangs wollte Hindenburg von Hitler, dem Führer der Nationalsozialistischen Partei, nichts wissen und nannte ihn den "böhmischen Gefreiten", weil anderes im Weltkrieg nur bis zum Gefreiten gebracht hatte und Hindenburg Hitlers Geburtsstadt Braunau am Inn mit der böhmischen Stadt Braunau verwechselte. "Hitler ist ein Trommler", sagte er ein anderes Mal im Hinblick auf die laute Propaganda der immer zahlreicher werdenden Nationalsozialisten. "Aber hat man gehört, daß ein General die Ratschaftheite eines Trommlers annimmt?" schließlich machte der 85jährige Reichspräsident unter dem Einfluß seiner Berater doch den "Trommler" zum Reichskanzler (1933). Das war der Anfang des Weges, der Deutschland ins Verderben führte.



h. dcburg

l. t v t. ncb. g. fr. h. dcburg cde. gu. 1914 e
g. tc t. l o. pr. cs v e russc. d m. e gc. al zm vkst. m
c heerfh. c wytkr. g. (1914~1918).

f. e mc. c su. tc z k. l. rc, b. s dah. k. nt. off
iz. r e s. g f. d. e m. t r. gc kte, u z. ltc fgcd
:

gc. al. ruhe. r. e h. dcburg jdc sox. n. o. pr. c.
k. n. sb. g l. h c e k. one s u prob. t i l
nde r masuri. c sec u s. mpfe, wo d. t. z. k. x. o. yu
g. c. ke. ma. n. ab, t. f. e. lax. s. k, u
v. l pf. de n. t. s. c, h. s. zz. hc. m
e l. e, e. mal. e. w. e k. one. a. z. ne. u
not. r. r gc. al. e k., s. y. c, wo n. m 20 pf.
de e k. one h. s. br. tc. h. b. l. f. d. n jd. m d
t. z. k. n. sb. g. d ab u fuhr n. h. se. e. e. e br
c. l. t, n. m. t. ncb. g. g. g.

vle jre sp. t. r d. c. k. e. eu d, w.
r. gct. e s. g. v t. ncb. g s, h. dcburg o. h. l. f.
e gc. al ludcd. ff. r. rr, r s. t 1925 r. spr. sidct,
m., d. frt ue: “w. n. wn wr a. l. t
l. c. c, d. an. uld.”

f. gs. o. h. dcburg v hitlar, fh. r n. n. sl. c p. t
ns wsc u n. n. ih e “b. hmi. c fr. tc”, w. l. h. l. f.
wytkr. g nr bs zm fr. tc br. t he u h. dcburg hitlars burts
adt br. n. am. n t r b. hmi. c adt br. n. we. sy. “h
itlar. s. troxl”, sg. h. b. l. i. l
qpag. da r x zlr. wcd. n. n. sli. c. “a ht m. h. r
t, gc. al. rat. he. troxl. s. nixt?” m.
r 85. jr. e r. spr. sidct. flu. rat. d. e
“troxl” zm r. sk. zl. (1933). d. r. f. g. wg, r
d. l. d. s. d. bc fh.



ルイ・ブライユの点字表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1 :											Upper4
	Aa	Bb	Cc	Dd	Ee	Ff	Gg	Hh	Ii	Jj	
2 :											+
	Kk	Ll	Mm	Nn	Oo	Pp	Qq	Rr	Ss	Tt	
3 :											+
	Uu	Vv	Xx	Yy	Zz	ge	es	em	β	st	
4 :											+
	au	eu	ei	ch	sch	ein	er	ue	oe	Ww	
5 :											Lower4
	,	;	:	un	or	an	eh	te	in	ar	
6 :											
	aeu	ie	ich	ae	des	im					
7 :											
	ig	lich		ck	ach						

点字から識字までの距離（七四）

墨田福祉作業所への出張貸出（一）

山内 薫（墨田区立あずま図書館）

区内の福祉作業所への出張貸出は、一九九八年七月の「ふれあいセンター福祉作業所」での個人貸出にはじまり、その後、社会福祉法人が運営する「さんさんプラザ」が改築されたのを機に、二〇〇四年の九月から、それでも月一回の個人貸出を行うようになり、現在に至っている。これらのサービスについては、以前この連載で「知的障害の方へのサービス」と題して、九回にわたってレポートさせていた。た。「点字から識字までの距離」四一―四九、二〇〇四年六月―二〇〇五年一月）今年の一月から新たにもう一ヶ所の福祉作業所への出張貸出が始まったので、ご報告したい。

墨田区内には在宅心身障害（児）者通所施設が一ヶ所あり、その内、知的障害者を対象とし、作業を伴う通所施設が六ヶ所ある。六ヶ所の内二〇人規模の作業所が三ヶ所、五五―六〇人規模の作業所が三ヶ所あり、「ふれあいセンター福祉作業所」と「さんさんプラザ」は後者に含まれる。六〇人規模の作業所の残り

の一つは「墨田福祉作業所」といい、「ふれあいセンター」と同様、公設の福祉作業所である。二〇年近くに、寺島図書館と一緒に仕事をしていた同僚がこの「墨田福祉作業所」に異動になり、作業の様子などを見学させてもらったことがある。図書館では「ふれあいセンター」「さんさんプラザ」での貸出が順調に実施されているので、福祉作業所でも二つの施設同様のサービスができないかと五年ほど前に打診したことがあった。しかし、その時には作業所の職員の反対があり、実現できなかった。おそらく自分たちの仕事が増えるという不安から反対されたのだらうと推測される。

昨年、「ふれあいセンター」の職員だった方が「墨田福祉作業所」の所長として転出したので、それまでの経緯をお話したところ、福祉作業所の職員に聞いていただき、出張貸出実現に向けて大きく前進したのだった。その方は以前の職場である「ふれあいセンター」での盛況ぶりを日頃眼にしており、むしろ積極的に図書館の出張貸出サービスを望んでおられた。

そこで、貸出を前提に見学させていただくことになり、あずま図書館の職員三名と、たまたまインターンシップで来ていた葛飾ろう学校の高校生の四人で、八月の暑いさなか福祉作業所見学に出かけていった。数種類の作業を行っている場を見せていただいていると

きに、図書館から来た人と紹介されると、すかさず「ハチ公の本を持ってきてほしい。」「ちびまる子ちゃんの本を持ってきてほしい。」と二人の方から声がかかった。

「さんさんプラザ」

でのサービス開始時と同様、事前に図書館の利用案内を行うことにし、その時に配布する案内チラシのデザインを葛飾ろう学校の高校生にお願いした。彼女はろう学校の専攻科デザイン系で学んでいるので、インターンシップの四日間の実習の課題としてチラシのデザインを考えてもらうことにした。できあがったチラシは「若い女性が魚を餌にして猫を釣り上げようとしている絵で、その猫が本の中から飛び出してくる。」という図案で、空いている部分に案内用の文章を貼り付けて作成した。

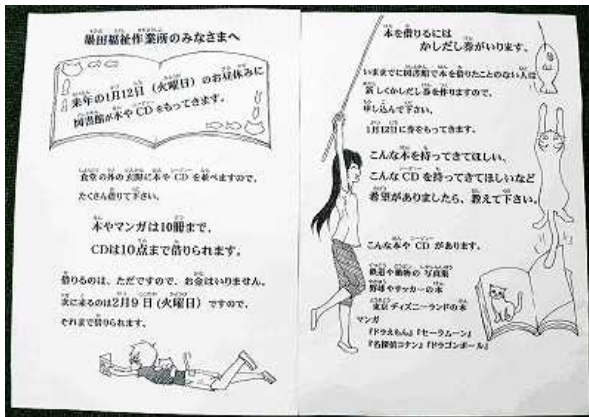
この間、福祉作業所との話し合いで、貸出は毎月第二火曜日のお昼休みに、玄関のスペースに机を置き、



利用案内の説明

資料を並べて行うことになった。本来なら九月の福祉作業所の利用者懇談会で、皆さんに図書館の利用案内を説明するはずであったが、図書館側と施設側のちょっとした行き違いがあったために、二ヶ月延びて一月の利用者懇談会で案内させていただくこととなった。

当日、利用案内のチラシの他に、一月一二日の第一回の貸出の時に、貸出を希望する方がすぐにその場で借りられるように、図書館のかしだし券を持っていないう方は事前にかしだし券を作れるよう、次のような案内も作成し、併せて図書館の利用登録申込書も一緒に配った。一二月一〇日に保護者会があ



ろう学校生のデザインしたチラシ

り、父母にも説明をして欲しいと要望されていたので、その時まで利用申込書を持ってきていただくこととした。

「本やCDをかりる券（かしだし券）をつくる方へ

★本やCDをかりるにはかしだし券がいります。

★かしだし券はだれでも無料でつくれます。

★本やCDも無料でかりられます。

次の質問に当てはまるときは、（ ）のなかに○を書いてください。

一、（ ）一月から図書館が持つてくる本やCDをかりたいので、かしだし券をつくりたい。

二、（ ）まえに図書館で本やCDをかりたことがあり、家にかしだし券を持つている。

三、（ ）まえにかしだし券をもっていたけれど、なくしてしまったので新しくつくりたい。

かしだし券をつくりたい方は利用登録申込書を書いて一二月一〇日の保護者会までもつてきてください。

もつてきてほしい 本やマンガやCDなどの希望がありましたら、下の四角のなかに書いてください。」

（漢字には全てルビを振った）

当日、午後三時に皆さんに食堂に集まっていただき、以上の三種類の用紙を配って利用案内を行った。

「図書館を利用したことのある方」と質問したところ、

ろ、五名の方が手を上げてくださった。先日ハチ公の本を持つてきてほしいと言われた方は、ビニールの袋の中に大事そうに入れた、図書館のかしだし券を持参して皆さんに見せて下さった。その「ハチ公」を希望された方のためにその日、絵本の『はちこう』（いしだたけお・え、くめげんいち・ぶん、金の星社）と『ハチ公ものがたり』（新藤兼人作、岩淵慶造絵、小学館）を持つて行ったので、早速そのかしだし券の番号を控えて二冊の本をお渡しした。また、ドラゴンボールを希望された方も自宅にかしだし券を持つているということだったので、お名前と住所を伺って「ドラゴンボール」のマンガ三冊をお渡しした。

図書館に帰って「ハチ公」を借りた方のかしだし券の番号を入力してみると、その番号は既に登録を抹消されている番号だった。つまり、以前図書館でかしだし券を作ったことがあるけれども、ここ五年以上その券を利用して資料を借りなかったということなのだった。ドラゴンボールを借りた方の場合も同様で既にその方も登録者の中に含まれていなかった。

最終的に第一回の貸出日である一月一二日までに貸出を希望する方と当日借りたいと申し出た方は三四名いらしたが、その内、日常的に図書館を利用して、かしだし券が有効だった方は一名しかいなかった。

一言

岡田健嗣



漢字の森

昨年十一月三十日、朝日新聞夕刊の、「ニッポン人・脈・記」の欄に、「漢字の森深く」というシリーズの一つとして、漢点字を取り上げていただいた。シリーズは十一月二十五日から十二月八日までの十回で、漢点字はその四回目であった。

十二月の半ばに、取材をして下さった朝日新聞の記者・白石明彦さんから、シリーズのカラーコピーが届いた。早速全文を漢点字訳していただいて、通読させていただいた。

そこで驚いたことが二つあった。

その一つは、漢点字の活動というのが、私が思っていた以上に地味な活動であったことである。勿論とても目立つ活動とは思っていなかったし、地道に積み重ねるのが王道だとも考えて来た。しかし如何にも当たり前のことを当たり前にやっているという、極めて日常の活動であったことに、改めて気付かされたのである。

もう一つは、これは誠に恐れ入るしかないことだが、漢点字の創案者の川上泰一先生や、横浜国大の村

田忠禧先生のお名前と私の名が並んでいることであった。

朝日新聞の白石さんによれば、週刊雑誌「女性セブン」の十数年前の記事に、漢点字が取り上げられているのを見つけて、これは珍しいものを見たと思われるので、調べ始められたとのことである。そこで漢点字協会をお訪ねになり、会長の川上先生の奥様から私のご紹介があったとのことであった。

「女性セブン」の記事というのは、一九九七年に本会で「漢字源」（藤堂明保編、学習研究社）の漢点字版を完成して、横浜市中央図書館に納入したことを朝日新聞やNHKテレビが取り上げて下さり、テレビ司会者の草野仁さんが司会をされていたテレビ東京の番組で、大きく取り上げて下さったのである。その内容を草野さんがエッセイを書かれている「女性セブン」にご紹介下さったものである。その中の草野さんのお尋ねに「思い出に残る言葉はありますか？」というものがあつた。そこで私は「慕情です。」と答えたのである。

白石さんは、なぜ「慕情」が心に残ったのかと私に問われた。私は映画の題名として子供のころに聞かされていたが、それが何のことかよく分からなかった。ただ大変感銘深い映画の題名だと聞いていただけだったのである。漢点字を学んで、初めて「慕（したう）」と「情（なさけ）」という字でできた熟語だと

知って、当時（昭和三十年代）の映画界を支えていた人たちのセンスの豊かさを知った思いがした、と答えたのである。

私の名が川上先生や村田先生のお名前と並んだことばかりで驚いてはいられなかった。

カラーコピーを漢点字訳していただいて通読してみると、何と綺麗、星の如きお名前が並んでいる。そのお仕事も、その拘りも、並大抵のものではない。

白川静先生については、改めて申し上げることもない。毎日のようにお世話になっている。『常用字解』（平凡社）の漢点字版も完成した。そのEED版は、何時でもパソコンの中で私を待っていてくれる。これから先も、常に道の先を照らして下さるであろう。

梅棹忠夫先生のご主張には、一理を感じない訳ではない。しかし視覚障害者の中には身の抛り所としている人も多い。稿を改めて考えて見る積もりである。

「障害」を「障碍」となぜ書いてはいけないのか、白石さんから質問を受けたとき、私はきちんとした答えができなかった。「碍」も「害」も、訓読は「さまたげる」である。それならば「害」でよいではないかというのが、当用漢字選出に当たる考え方であつたろう。また「障害者」というのは「Impaired Person」の訳語である。そもそも日本語にはない言葉である。このようなことを含めて、これも稿を改めて考えて見なければいけない課題である。

「万葉集」の木簡が出土したという。「万葉集」は我が国最古の書物の一つとされている。しかし記紀と異なつてその成立時期や事情は必ずしも明らかではない。大伴家持が編集したと推定されている。その収録歌が木簡に記されているのが初めて発見されたのである。これは驚きというより心が躍った。ますます「万葉集」が読みたくなった。（現状ではまだ叶わないことである。）

太田治子さん、私にとって正にスターである。

昨年は太宰治生誕一〇〇年とか、久々に太宰の名前を聞く機会が多かった。そんな中に、「太宰検定試験」とかいうのがあつて、この試験でその人の太宰度が分かるというのである。ここに紹介されている問題を引いてみよう。

（私には、また別の専門科目があるのだ、世人は假りにその科目を（ ）と呼んでゐる。）

これは『津軽』にある一説だという。この（ ）に入る漢字一字を記せというのが問題である。

幸いにして私は「愛」という字を当てることができた。太田さんは生まれながらにして「斜陽の子」として生きて来られた。それだけに濃厚な人生であつたに違いない。私も同時代を生きて来たのだが、太田さんと同じ空気を吸っているなどと思つてもいいことだつた。（勿論そんなはずはなく、どこかで擦れ違つている可能性が大なのであるが……。）

見果てぬ夢を（十九）

山 本 優 子



十六 見はてぬ夢を（承前）

（日本の盲人界に、こんな青年が出てきたんですね）

増江は、中村の話を聴きながら、亡き孝之進とそんなことを語りあっている想いになっていた。増江たちと中村とは、これから約二ヶ月の航海の無事を祈り、何度も握手をして別れた。波止場に立って、船を見送りながら、不意に増江は思った。

（孝之進が生きていたら、英国に留学するのは、彼だったかもしれない……）

だんだん遠ざかってゆく中村を乗せた船を見つめながら、増江は胸のうちにうずくものを押さえていた。

それから数日後のことだ。増江が誰よりも頼みとしていた千代が突然倒れた。そして、翌日には帰らぬ人となってしまった。一九一二年（明治四十五年）五月十八日だった。

七十七年も生きられたのだから、と人は言う。だが、増江は、がっくり力を落とした。この世でもう誰とも重荷を分かち合うことができない。どん底に突き

落とされた増江は聖書の言葉を想った。力つきかけた預言者が神に向かって怒りをぶつけた箇所である。

「彼弱りて心の中に死ぬることを願ひて言ふ。生くことよりも死ぬるかた我に善し……」（ヨナ書）

すると、神は、右左もわからない人と家畜の住む町を滅ぼすのを惜しまないではいられないと語った。訓盲院の子どもたちを見捨てることはできない。増江は、まだ自分の役割が終わっていないのを悟った。神が自分を取られるときまで、働こうと決心し直すほかなかった。

一九一三年（大正二年）四月。二十四歳の今関秀雄が主任教師として、着任した。今関は、五歳で失明、東京盲学校で学びながら、中学夜間部や私塾で英語、数学、ドイツ語などを身につけ、大正二年三月、東京盲学校教師範科第一回生として卒業した人物だった。若々しく誠実そうな青年教師として現れた今関は、増江との初対面の挨拶のとき、

「左近允さん、今後よろしくお願いします」

と、頭を下げ、しっかりと握手をしてきた。女性経営者をばかにするような態度の男性を見てきた増江はほっとした。孝之進と相通ずる度量の大きさと情熱を感じる。

その夕方、院舎の清掃をしながら、増江は主である神に向かって語りかけた。

(主よ、こんどおみえになった今関先生は、若いころのこうさんにどこか似ていませんか？ 訓盲院を建て直すために命をかけてくださりそんな人ですわ)

少し心が弾んでいる。が、また思った。

(訓盲院は、孝之進の時代が終わろうとしている…)

しかるべき人物に訓盲院の明日を任せたいという想いと、孝之進と共に築きあげてきた訓盲院を、その苦勞を知らない他人に渡したくないという想いとが交錯し始めた。

今関は着任するとすぐに訓盲院の実態を詳細にたずね、自ら歩き回って一つ一つ確認していった。そして、増江が予感していたとおり、院生とともに米をもらい歩くことに関して話をしたいと切り出した。今関は、はつきり語った。

「院生のものもらいの行為は、教育上間違っています。わたしは、自分の進退をかけてこれを廃止させていただきます」

増江はたじたとになった。これまで関係者から出されてきた提案をはねつけてきたが、その勢いを削がれてしまった。今関の決意を受け入れ、増江はやくそな思いで、物もらいや物売りのようなことを二度としないと約束した。夜、ひとり悔し泣きをしなが、増江は、神に訴え続けた。

(今関さんを送って、こんなふうになされたのは、あなたです。明日から子どもたちが飢えまですけど、責任をとってください！)

これまで押さえこんできた怒りや自分を憐れに想う感情に支配され、声をあげて泣きじゃくっているうちに、眠りこんでしまった。

翌朝、少し気持ちの整理ができたように感じた増江は、神の助けがすぐにあるのではないかと期待した。ところが、その日一日、翌日も、その次の日も、米俵は天から降ってこなかった。

訓盲院では暗い部屋の一隅で、古ゆかた一枚をまとった設立者左近允増江が子どもたちと肩を寄せ合って震えているとか、豆腐屋も訓盲院のそばは鈴を鳴らさずに避けて通るといったうわさがたつほどだった。それもあながち誇張とは言えない。

教会の人たちなどがそとと差し入れてくれたわずかな米や野菜をその日その日子どもたちに食べさせる。

増江はやせ細った身体に鞭打つようにして、院舎を清掃し、院生の点字教材などを整え、休む間もなく立ち働いた。

今関ももちろん極度の貧窮生活を送っていたわけだが、周囲に悲壮感を与えることなく穏やかだった。熱意のこもった授業を展開し、すぐに院生たちに慕われるようになった。その一方で篤志家のもとを訪れ、訓

盲院建て直しのために資金繰りにも力を尽くしていた。その落ち着いた献身的な働きぶりを見るにつけ、増江はますます自分を惨めに感じてしまうのだった。

今関は着任するとすぐに訓盲院の実態を詳細にたずね、自ら歩き回って一つ一つ確認していった。そして、増江が予感していたとおり、院生とともに米をもらい歩くことに關して話をしたいと切り出した。今関は、はつきり語った。

「院生のものもらいの行為は、教育上間違っている。わたしは、自分の進退をかけてこれを廃止させていただきます」

増江はたじたとした。これまで関係者から出されてきた提案をはねつけてきたが、その勢いを削がれてしまった。今関の決意を受け入れ、増江はやくそな思いで、物もらいや物売りのようなことを二度しないと約束した。夜、ひとり悔し泣きをしながら、増江は、神に訴え続けた。

（今関さんを送って、こんなふうにされたのは、あなたですから、明日から子どもたちが飢えますけれど、責任をとってください！）

これまで押さえこんできた怒りや自分を憐れに想う感情に支配され、声をあげて泣きじゃくっているうちに、眠りこんでしまった。

（つづく）

「東京漢点字羽化の会」例会報告と

わたくしごと

木村 多恵子

第49回例会 2009年12月9日（水）13:30

15:30、ヒューマンプラザ第1会議室

「東京漢点字羽化の会」は、いよいよこの12月から5年目に入った。まる4年は瞬く間に過ぎてきた。皆様ありがとうございました。どうぞこれからもよろしく願います。

これまでに沢山の本を入力していただいた。少しややこしいもの、歌、特に今は「漢文の読み方」は、ひとつひとつの記号を決めてゆくだけでも大変な作業である。そして、今後はひとりひとりが、自分でEIBR KWを使って、漢点字で読みよいようにデータのレイアウトなどを整えられるようになっていただくことを願っている。多分そこまで手がかけられると、達成感は一塩であろうと思う。

今日は「博物館」を取り上げて校正をしながら、具体的に記号や文字の使い方を、岡田さんが説明をした。

第50回例会、2010年1月13日(水) 13:30

15:30、ヒューマンプラザ第1会議室

5年目の新しい年を迎えた。改めて今年もよろしく
お願いいたします。

今年は、パソコン入力による、漢点字点訳をしてい
ただくボランティアの方を、新たに募集し、前回「東
京漢点字羽化の会」発足に向けて講習会を行なったよ
うに、本会としては初めての講習会を開きたい、春頃
から準備をはじめ、秋には実施したい。そんな計画を
岡田さんが提案した。現在活動中の皆様のご協力をい
ただき、是非実行したいと話合った。

今日は主に「博物館」の入力済のファイルを開い
て、校正の実際の方法を具体的にを行った。数字ひとつ
を採っても、原本が算用数字だったり、漢数字だった
りして、ただ表面だけを見ていると、どちらが正しい
のか分からなくなってしまう。したがって丁寧に原本
に当たって校正をしなければならないことなどが分か
った。

* 予告

2月の例会(第51回) 2010年2月10日(水)

13:30~15:30、7階第一会議室

第35回学習会 2010年2月20日(第3土曜日)

18:30~20:30 ヒューマンプラザ7階第1会議室

3月の例会(第52回) 2010年3月10日(水)

13:30~15:30 7階会議室

第36回学習会 2010年3月20日(第3土曜日)

18:30~20:30 ヒューマンプラザ7階第1会議室

4月の例会(第53回) 2010年4月7日(水)

13:30~15:30、7階会議室

第37回学習会 2010年4月17日(第3土曜日)

18:30~20:30 ヒューマンプラザ7階第1会議室

わたくしごと

お花を嫌いな人は少ないと思う。たとえば、この花
の花粉はアレルギーを起こす、かぶれる。ある種のお
花はむしろ悲しみや辛さを思い出させるため、素直に
愛でることができない、というようなことはあるかも
しれない。けれども花を見て「いやだ」と拒否する人
は少ないと思う。

お花を好きな人は多いので、どこでもお花を見るこ
とができる。家庭内では玄関、居間、食卓、寝室、ト
イレなど、それぞれ相応しい花器を使つての生け花、
窓辺に置いた小さな鉢。庭に植えた花や、いつの間
にか咲き始めた花木。どこにでもある公園の花壇。ま
た、いつ誰が落とした種か、風が運んだのか、鳥や虫
が運んだものか、石畳や土塀の割れ目から芽吹いた小

さな花。山野に咲いているもの。そしてフラワーデザイナーが形を整え、彩りも見事に選りすぐった花籠。豪華絢爛たる祝宴の花、花嫁さんが持つブーケ。

一方、亡き人を偲んで手向ける特別な花。

花の種類も様々。日本古来の梅、桜、山野に咲いていた露草、ひとりしずかやほととぎす、つりがね草、シヤガ、ホタルブクロ。洋花のランシユラス、アストロメリア。薰り高い百合や蘭の数々、大輪のシヤクヤクやボタン、アマリリス。専門家が手入れを怠らぬ庭園の見事なバラたち。

どれもこれも人々は、それぞれ時に合わせ、日常の心持ちに合わせて楽しんでいるとおもう。

わたしの花の楽しみ方は、少しばかりの鉢物を置き、多くは切り花を買い求めて、その花のつぼみ、開花と、その盛りから衰え、枯れてゆくまでを見守っていたが、これはある意味でははかないものであった。とくに、枯れ果てたと思つた花を捨てようとするとき、枝を折つた瞬間、ふっと、その花の香りが匂い立つ。これはたまらなく切ない。まだ生きている花を死なせてしまったような傷みが胸を刺す。切り花とのお別れが一番いやなときである。

ところが最近、小さな花たちをこよなく愛する友人ができ、彼女に手伝っていたきながら、種を蒔き、苗や球根を鉢に植えて育てる楽しみを教えていただけ

るようになった。

まず土づくり、新聞紙を一杯に広げて、そこへ腐葉土と赤玉土の小粒とを混ぜる。これをそれぞれの鉢に入れるのだが、水はけをよくするために、鉢の底にネットを敷き、鉢底石を敷き詰める。その上に混ぜ合わせた土を、鉢の三分の一程度入れて、苗を置く。そしてまた土をかぶせる。更にここでわたしは、後で何を入れた鉢か分からなくならないように、鉢の外側に点字ラベルを貼る。

簡単に言えばそんなことで、誰でも知っていることであるが、実際にやってみるとわたしはワクワクしてしまう。

今、我が家のベランダに並べられた鉢は、花盛りのビオラ、ジュリアン、沈丁花、二種類の水仙。スノードロップとハナニラと真弓は出番待ち。花の盛りを終えたサフランとヒヤシンス。金の成る木は、今花芽が一杯着いている。(この金の成る木という名前は好きではないが、「クラッスラ」L」と学名ではピンとこないし気恥ずかしい)。

新しく育て始めた花々は、香りがよいという理由で黄色を選んでいる。

部屋の中には、これまでに集めたものやいただいたものなどのイングリッシュパイプ、クミラ、マユハケ。葉っぱだけになってしまった胡蝶蘭。プレクトラ

ンサスというハーブ。この夏目覚めてくれるか心配な深山沙三（みやまさじん）。そして大きな鉢のトラノオなどである。

どれもこれも水やり加減が難しい。花殻を丁寧にとって、新しい花を咲かせる余地を作ってやるのも結構難しい。

ときには、我が家へ来てくださる友人たちが、一通りわたしの「楽しみ」を見回ってから、「お水やらなにかかいそうよ」と言ってくださったり、土や鉢や肥料と一緒に買いに行ってくださったり、土は重いから、と言って一度わたしを家まで送ってくださってから、自転車で荷物を運んでくださったりする。

わたしのところにある花たちは、こんなふうに、わたしひとりで育てているのではない。

毎日お花たちと話しをする。まず朝起きると、おはよう、と言う。今日はどの花がどれだけ咲いてくれたか、「お水欲しい?」、「いつ頃咲いてくれる?」、「お日様が一杯で気持ちいいね」、「昨日はこんなことがあったの」、「今日はどこそこへ行ってくるからね」などと、彼女らと話をしながら香りを楽しみ、葉っぱが元気か、一通り触ってみる。このような話しかけは切り花ともしていたが、花好きの人なら当たり前のことだ。

新しく、それも第一輪が開いたのを見つけるのは、

発芽を見つけると同じようにたまらなくうれしい。

ところがある日、匂い水仙の第一輪が開いたのを見つけたとき、「あ! さいた」と思わず声に出したものの、自分でも不思議なくらい、いつものような飛び上がるような喜びがわき上がらなかった。うれしかったのは確かなのに! なぜ? なぜいつものように喜べないの? 自分でも驚いた。それほどそのとき、わたしの心はふさぎこんでいたのだ。それでも香りを胸一杯に吸い込んでいるうちに、徐々に喜びが増してきた。お花たちに、喪失の悲しみを慰められていたあの日々のように!

今は、春、夏に向けての「お花一杯」計画を立てることと、羊の耳のような柔らかい葉っぱが出るというラムズイヤーの苗を植えるのを楽しみにしている。それに、球根たちはお花の種類によって、少しずつ、お花が終わった後の手入れの仕方が違うというので、このお世話も忙しくなりそうである。

そしてもうひとつ、去年はスターチスとミステイブルーをドライフラワーにして玄関に置いていたが、古くなったので、今年は新しくドライフラワーになる花材を教えていただいて、すっきりしたものと取り替えたと思っている。

2010年1月30日 土曜日

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成21年度 第8回 (第32回) 報告

1 日時 平成21年11月21日 (土)

18時30分〜20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者 (省略)

4 使用教材 「漢点字講習用テキスト 初級編

第三回 (全十回)」点字編、墨字編

レーブライター…妻、高、低、優、良、可、

東、西、南、北

5 学習会内容

(1) 連絡事項 (省略)

(2) 前回の復習 基本文字 (3) 比較文字

漢点字は、1マスで表わす57文字を基本とし、これをパーツ (偏又は旁) として2〜3マスで文字を構成している。「比較文字」は、1マス目に比を表わす4・5の点を用い、2マス目にパーツ部分で文字そのものを表わしている。

* 「右」と「左」

(6) 「右」 比と5・6の点。口の部分はサ

イを意味する。

(7) 「左」 比と2・3の点。工の部分は物を作る際の道具を意味する

* 「大」と「小」

(8) 「大」 比とケ (1・2・4・6) の点

で表わす。

(9) 「小」 比とソ (2・4・5・6) の点

で表わす。

* 「出」と「入」

(10) 「出」 比とへ (1・2・3・4・6)

の点で表わす。

(11) 「入」 比とナ (人…1・3) の点で表

わす。

(3) 今回の学習

「大」 4・5とケ (1・2・4・6の点) の近似文

字

(1) 「天」 ア (1) とケ (1・2・4・

6) の点で表わす。音読みのテンは漢・呉音。訓読みに「そら」がある。熟語に「天晴れ (あつぱれ)」

「天邪鬼 (あまのじゃく)」 「天体」 「天井」 「韋駄

天 (いだてん)」 「天麩羅」 地名に「天城」 「天草」

「天橋立 (あまのはしだて)」 「小天 (おあま…熊本

県内の温泉)」 「他の読みに「天牛 (かみきりむし)」

「天社蛾 (しゃちほこ)」 「天蛾 (すずめが)」

天糸瓜（へちま） “ 紅天蛾（べにすずめ） “ 信天翁（あほうどり） “ 天鷲絨（ビロード） “ など。

(2) 「太」 “ 2の点とケで表わす。音読みのタイは漢・呉音、タ・ダは慣用音。音読みに「はなはだ・しい、おお、もと」名前にふとし。元は「泰」の字で、上の三を一に、人、したみずを、(点)と簡略した。熟語に「太刀」「丸太」「太子」「明太(めんたい)」「心太(ところてん)」「地名に「樺太」「太宰府」「太秦(うずまさ)」「伊太利(イタリヤ)」「濠太刺利(オーストラリヤ)」「壠太利(オーストリア)」「太平洋」など。

(3) 「夫」 “ 3の点とケで表わす。音読みのタイは漢音、フウは慣用音、ブは呉音。訓読みに「それ」、名前に「お」。熟語に「太夫(たゆう)」「丈夫」「凡夫」「思い夫(おも・いづま)」「夫夫(それぞれ)」「万夫(ばんぷ)」「水夫(すいふ、かこ)」「夫唱婦随」「信夫(しのぶ)」「他の読みに「泪夫藍(サフラン)」など。

「出」 “ 4・5の点とへ(1・2・3・4・6の点)の近似文字

(4) 「片」 “ へ(1・2・3・5・6の点)と5の点で表わす。音読みのヘンは漢・呉音。熟語に「欠片(かけら)」「かた」がつくものに「片思い」「片時」「片手間」「片付け」「片仮名」「ヘン」に

は「木片」「断片」「碎片」、「ひら」では「一片(ひとひら)」 “ 四片(よひら)花弁が4片あること) “ など。

基本文字 (3)

対あるいはグループをなす比較文字 (2)

* 「高い」と「低い」

(12) 「高」 “ 比とエ(1・2・4の点)で表わす。音読みのコウは漢・呉音。えんがまえの中にある口はサイを意味する。熟語に「高飛車(たかびしや)」「居丈高(いたけだが)」「気高い」「高貴」「崇高」「高級」「最高」「高原」「高所」「高梁(こうりやん)」「高天原(たかまがはら)」「地名に「高知」「高野山」など。

(13) 「低」 “ 比とソ(3・5・6の点)で表わす。音読みのテイは漢音。熟語に「低落」「最低」「低音」「低温」「低姿勢」「平身低頭」など。

* 「優・良・可」

(14) 「優」 “ 比とユ(3・4・6の点)で表わす。音読みのユウは漢音、ウは呉音。訓読みに「まさる」名前に「ゆたか」がある。熟語に「俳優(はいゆう、わざおぎ)」「男優」「女優」「声優」「優越」「優雅」「優遇」「優先」「優柔不断」「優男(やさおとこ)」「優曇華(うどんげ)芭蕉の花の異

称。三千年に一度花開く」など。

(15) 「良」 比とヤ (3・4の点) で表わす。音読みのリヨウは漢音、ロウは呉音。訓読みに名前として「なが」がある。熟語には「善良」「改良」「不良」「良妻賢母」「公序良俗」「野良(のら)」、地名に「奈良」「長良川」「沖永良部島(おきのえらぶじま)・奄美諸島の一つ)」「富良野」など。

(16) 「可」 比とカ (1・6の点) で表わす。音読みの力は漢・呉音。音読みに「よい、よし」がある。常用字解は外の部分は大きな木の枝を意味し中の口はサイで、サイを叩き、神を驚かすという意味があるという。音読みの力は漢・呉音。訓読みに「よい」「名前に「よし」がある。熟語に「可能」「可燃」「不可能」「許可」「認可」「不可解」「不可欠」「不可抗力」「生半可」「可及的」「可笑しい(おかしい)」「可惜(あたら)」など。

平成21年度 第9回(第33回) 報告

- 1 日時 平成21年12月19日(土) 17時20分～18時30分
- 2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室
- 3 出席者(省略)
- 4 使用教材

「漢点字講習用テキスト 初級編

第三回(全十回) 点字編、墨字編

5 学習会内容

(1) 連絡事項(省略)

(2) 学習会

基本文字(3)

対あるいはグループをなす比較文字(2)

* 「東・西・南・北」

(17) 「東」 比 (5・6の点) とヒ (1・2・3・6の点) で表わす。日と木を重ねたような形。円筒形の袋の上下をしぼって、中に物を入れた形をした文字といわれる。音読みのトウは漢・呉音。訓には「がある」。白川先生の節では元々は「ひがし」の意味は無い。古くは「坂東(ばんどう)・足柄・碓氷(うすい) 以東の諸国」として称された。東をパーツで使う文字に「棟」「諫」などがあるが、類似した「棟(レン)」「諫(カン)」などがある。熟語に「馬耳東風(ばじとうふう)」、他の読みに「東風(こち、あゆ)」「東雲(しのめ)」「東海林(しょうじ・人名)」などがある。

(18) 「西」 比とニ (1・2・3) で表わす。音読みのテイは漢音、サイは呉音。熟語に「東奔西走」物語に「西遊記」地名に「西表(いりおもて)」「葛西」外国名に「西貢(サイゴン)」「西比利亜(シベリア)」「瑞西(スイス)」「西班牙(スペイン)」「西蔵(チベット)」「新西蘭(ニュージー

ーランド) “ 伯刺西爾(ブラジル) “ 仏蘭西(フランス) “ 墨西哥(メキシコ) “ 露西亜(ロシア) “ 他の読み “ 西瓜(すいか) “ などがある。

(19) 「南」 比とミ(1・2・3・4・6の点)で表わす。音読みのナンは漢・呉音。文字は南の地方の住人が使った楽器に由来しているという説がある。熟語に “ 南無(なむ) “ “ 指南 “ 他の読み “ 南風(なんふう、はえ) “ “ 南瓜(かぼちゃ) “ “ 石南(楠)花(しやくなげ) “ “ 南燭(しやしやんぼ) ツツジ科の常緑樹。高さ1・3メートル。6月頃白い花をつけ晩秋、紫黒色に熟し、液果は甘酸つばく美味。) “ 国名に “ 越南(ベトナム) “ がある。

(20) 「北」 比とキ(1・2・6の点)で表わす。音読みのホクは漢・呉音。訓読みに “ にげ “ の意味がある。熟語に “ 硯北(けんぼく)宛名の脇に添え書きする敬語の一つ “ “ 地名に “ 北海道 “ “ 台北(タイペイ) “ “ 名前に “ 北条(ほじょう) “ などがある。

コーヒーブレイク 東西南北を含む文字。

・東風(ひがしかぜ、こち)、西風(にししかぜ、せいふう)、南風(みなみかぜ、なんふう)、北風(きたかぜ)

・東京、西京(さいきょう)京都、南京(なんきょう)平城京、奈良、ナンキン中国の都市、北京

(ほつきよう)平安京、京都、ペキン中国の首都
・東海道(江戸日本橋から西方沿岸の諸国を経て京都に至る街道)、西街道(さいかいどう九州地方)、南街道(畿内・山陽道の南方)、北陸道(福井県の若狭から日本海側の能登を経て富山、新潟、佐渡に至る街道)

・棟(トウ、むね)、栖(セイ、すゝむ)、楠(ナシ、くすのき)。「北ナシ」

* 「鶴」と「亀」

(21) 「鶴」 比とセ(1・2・4・5・6の点)で表わす。音読みのカクは漢・呉音。左側はウ冠にふるどり、右側は鳥と左右にトリが入っている。熟語に “ 凍て鶴(いてづる) “ “ 折鶴 “ “ 雲鶴(うんかく)雲と鶴を配合した文様 “ “ 鶴首(かくしゅ)待ちわびること “ “ 鶴寿(かくじゅ)長命 “ “ 鶴禁(かつきん)東宮御所 “ “ 千羽鶴 “ “ 夕鶴(木下順二作、戯曲) “ “ 地名に “ 真鶴 “ “ 舞鶴 “ などがある。

(22) 「亀」 比とメ(1・2・3・4・5・6の点)で表わす。亀の形からきた文字。音読みのキは漢・呉音。熟語に “ 亀舞(かめまい)腹這いで踊る “ “ 地名に “ 亀岡 “ “ 亀戸 “ “ 名前に “ 亀井 “ “ 亀山 “ などがある。

漢文のペリジ

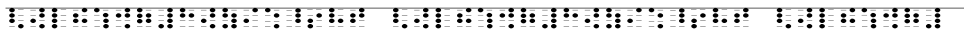
桃源郷 (一)

自_ラ黄女_、其_、陌_、美屋_、然_ト人_ヲ口_レ若_シ
 樂_シ髮_{○ム}衣_、中_ニ交_ハ池_リ・舎_ハ開_テ復_{入_ルレガ}有_ル山_ニ
 垂_、着_ハ往_、通_、桑儼_{朗_ナリ}行_ク初_メ光_○有_ニリ
 髻_、悉_ク来_シ鶏竹_{然_タリ}土_数極_メ便_チ小
 並_ビ如_シ種_ニ犬_之有_リ地_ハ十_{狭_ク、}捨_テ口_、
 怡_外作_ス相_ル属_、良_平歩_、纔_カ船_ヲ髻_ト
 然_ト人_ノ男_{聞_コユ}阡_田・曠_ニ豁_{通_ズル}從_リ髻_ト
 然_トシテ

晉_シの時代の_{しん}こと、武陵_{ぶりよう}(湖南省)に住む
 漁師_{しん}が谷川をさかのぼっていくと、兩岸に
 桃花_{とうか}の花_{はな}の林_{りん}が続くところへ迷い込んだ。桃
 の花_{はな}ばかりでほかの木はない。不思議に思
 いながらさらに進むと水源にたどりつき、
 そこは山でいきどまりになっていた。

(陶淵明『桃花源記』より)

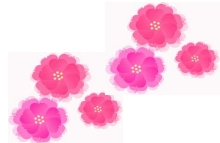
山に小口_{すなわ}有り、髻_{ほう}として光_{みつ}有る
 がごとし。便_{すなわ}ち船_{ふね}を捨てて口_{くち}より入
 る。初_{はつ}めは極めて狭_{せま}く、纔_{わず}かに人を
 通_{とお}ずるのみ。復_{また}行くこと数十_{しうじ}歩_ぽ、
 豁_{かつ}然_{ぜん}として開_{ひら}朗_{らう}なり。土地_{ちど}は平_{へい}曠_{こう}
 に、屋_{おく}舎_{しゃ}は儼_{げん}然_{ぜん}たり。良_{りやう}田_{でん}・美_び池_ち・
 桑_{そう}竹_{ちく}の属_{ぞく}有り。阡_{せん}陌_{ばく}交_{かう}わり通_{とお}じ、鶏_{けい}
 犬_{けん}相_{さう}聞_{もん}こゆ。其_{その}中_{ちゆう}に往_{わう}来_{らい}し種_{しゆ}作_{さく}す
 る男_{なん}女_{にょ}の衣_い着_{やく}は、悉_{しつ}く外_{がい}人_{じん}のごと
 し。黄_{わう}髮_{はつ}垂_{すい}髻_{ちやう}、並_{へい}びに怡_い然_{ぜん}として自_じ
 ら樂_{らく}しむ。



桃源郷



山ニ有リ小口、髭髭トシテ
 若シ有ルガ光。便チ捨テテ
 船ヲ從リ口入ル。初メハ極メ
 テ狭ク、纔カニ通ズルノミ人ヲ。
 復行クコト数十歩、豁然トシテ開朗ナリ。
 土地ハ平曠ニ、屋舎ハ儼然タ
 リ。有リ良田・美池・桑竹之属。
 阡陌交ハリ通ジ、鶏犬相聞コユ。
 其ノ中ニ往來シ種作スル男女ノ
 衣着ハ、悉ク如シ外人ノ。
 黄髮垂髻、並ビニ怡然トシテ自
 ラ樂シム。



せんばく

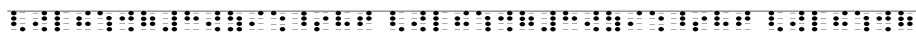
阡陌＝道。

外人のごとし＝外部の人間と同じで、
 特に変わったところはない。

こうはつすいちよう

黄髮垂髻＝髪の色が薄くなった老人や、垂れ髪の子供。

参照図書：奥平 卓『漢文の読みかた』（岩波ジュニア新書）



漢点字講習用テキスト

初級編 第十八回

7. 漢数字および第一基本文字を部首とした文字 (7)

この回が、初級編の「漢数字および第一基本文字を部首とした文字」の最後です。

(115) 道 道 ドウ トウ みち

「首」に「しんによう」を加えた形の文字です。「しんによう」は、ものの動く様子を表す部首で、ここでは、人々が行くみちを意味します。「みち」は、実際に人が行き交いをするとところでもあり、そこから人の行いの基準、道徳の意味が生じました。また、宗教、芸術、武芸、芸能などの流れを指す語としても用いられます。漢点字では、「しんによう」と「首」で表されます。

「道路」「道徳」「道教」「街道」「北海道」「神道」「柔道」「剣道」「茶道」「華道」「道草」「獣道」

(116) 貧 貧 ヒン ビン まず - しい

「分」の下に「貝」を置いた形の文字です。「貝」は、財産や貨幣を表していて、「分」はそれを分けて費やす様子を表しています。「まずしい」と読んで、金銭や家財の乏しい人を指します。また、才能や学問の乏しい様子をも表します。さらに、ものの少なくなった状態の意味にも用いられます。漢点字では、「分」と「貝」で表されます。

「貧窮」「貧乏」「貧苦」「貧血」「清貧」「救貧」

(117) 防 防 ボウ ふせ - ぐ

「こごと偏」の右側に「方」を置いた形の文字です。「方」は、左右に張り出した形を表していて、襲って来る敵や、氾濫する水を堰き止める意味を表しています。「こごと偏」は、土を盛った形を象っていて、これも「方」と同様の意味を表します。漢点字では、「こごと偏」と「方」で表されます。

「防衛」「防御」「防火用水」「堤防」「予防接種」



(118) 明^日 メイ ミョウ ミン あか - るい
あか - らむ あか - い あ - ける あき - らか

「日^日」の右側に「月^月」を置いた形の文字です。「日^日」は、元来は日ではなく、窓を象ったものでした。夜、窓から月の光が射して、部屋の中が明るく照らし出される様子を表す文字です。訓読みの「あかるい、あからむ」は、文字通り光に照らされて明るくなることを表しています。「あける」は、夜が明ける、年が明けるの意味です。「あきらか」も、光に照らされて、よく見えることを意味します。あかるい、はっきりしている、道理がよく分かっている、ものを見分ける力がある等の意味があります。音読みの「ミン」は、中国の王朝の名称です。漢点字では、「日^日 (日)」と「月^月 (月)」で表されます。

「明瞭」「明白」「明快」「明敏」「明晰」「明日」「賢明」「未明」「文明」

※「車^車」を部首として含む文字二つ。

*これまでに「車^車」を部首として含む文字、「軍^軍」、「転^転」をご紹介します。後二つ、第一基本文字で構成される文字があります。

(119) 庫^庫 コ ク くら

「广^广」の下に「車^車」を置いた形の文字です。「广^广」は、建物の屋根と壁を象っていて、「車^車」は戦車を表しています。戦車を保管する建物が、この文字の意味です。そこから、色々なものを保管しておく「くら」として用いられます。「庫裏 (くり)」とは、寺の台所の意味です。漢点字では、「广^广 (广)」と「車^車 (車)」で表されます。

「庫裏」「倉庫」「車庫」「書庫」「冷蔵庫」

(120) 連^連 レン つら - なる つら - ねる
つ - れる つれ

「車^車」に「しんによう」を加えた形の文字です。車が連なっていく様子を表しています。列を連ねて行く、転じて、関わり合いになる。「つれる」と読んで、人を連れて歩く、連れを伴って行く、そこからさらに、友とか仲間の意味に派生しました。漢点字では、「しんによう (しんによう)」と「車^車 (車)」で表されます。

「連行」「連動」「連座」「連中」「連帯」「国際連合」「歌は世に連れ、世は歌に連れ」

「報告とご案内」



一 『常用字解』

① 『常用字解』の漢点字版が完成しました。

二〇〇四年から足かけ七年をかけて取り組んで参りました『常用字解』（白川静著、平凡社、二〇〇三年）の漢点字版が、漸く完成しました。

昨年（二〇〇八年）度にその前半一〇冊を、この程二〇〇九年度分として、後半八冊を横浜市中央図書館に納入致しました。全一八分冊が揃いましたので、全国の図書館を通してご利用いただけます。

当初は漢点字版の「凡例」を加えて、全一九巻になる予定でしたが、本会では昨年、担当者の急逝という不幸に見舞われ、執筆することができませんでした。

そこで来年（二〇一〇年）度納入を予定している『人名字解』（白川静著、平凡社）の漢点字版と一緒に「凡例」を納めたいと考えております。

「凡例」では、漢字の字形を如何にして表すかの工夫として「字式」を取り入れたことと、「字式」がどのように表現されているかを中心にご説明する予定です。

また原書には甲骨文字や金文、あるいは文字の古形その他多くの図像が収録されています。それらをどのように触読文字に置き換えるかなど、断念も含めた工夫をご紹介します予定です。

「字式」では、漢字の書記法として現在行われている筆順や運筆から、一旦離れることになっています。墨字をお使いの方も、空中に指でトレースしていただくなどして、お楽しみいただけるものと信じます。

長年月、製作に取り組んで下さいました会員の皆様に、深く御礼申し上げます。今回納入致しました漢点字書は、これまでのものと同様に、打ち出し以外の工程は全て会員の手作業によっています。また編集に当たって下さりながら、その途半ばでご永眠なさいました高橋幸子様にご心よりの感謝を捧げ、またご冥福をお祈り申し上げます。

② EIB版『常用字解』のご用意がございます。

パソコンで『常用字解』が引きたいというご希望に、本会開発の、漢点字用点字ファイルである「EIBファイル」をご提供致します。EIBファイルは、読み取り専用プログラムのEibkrwで、ピンディスプレイに送出して、漢点字で読むファイルです。Eibkrwは、無料で配布しております。ご相談下さい。

③ ご提案あるいはお願い、音訳によるDAISY版を！

漢字から離れることを余儀なくされている中途失明者の皆様に、『常用字解』を音訳してDAISYでお届けできたら素晴らしいではありませんか。DAISYには便利な検索装置があります。『常用字解』は音読による五十音順に配列されています。

漢字の音訳には、漢点字版のノウハウが極めて有効に違いありません。挑戦してみようと思われる音訳者の方は、お問い合わせ下さい。多少の準備は必要かと存じますが、漢字のお好きな方には、お楽しみいただけるかと存じます。

二 表彰

昨年・二〇〇九年十一月に、横浜市社会福祉協議会から、横浜漢点字羽化の会が永年活動によって表彰されました。大変ありがとうございました。

横浜漢点字羽化の会は、一九九六年一月三十一日に活動を開始しました。現在十五年目に入っております。

これも全て、会員の皆様の弛まぬ努力の賜であり、ご支援下さる皆様のご鞭撻の賜です。深く感謝申し上げます。

三 漢点字講習会

①横浜漢点字羽化の会

二〇一〇年度も、横浜市健康福祉局、市教育委員会、市社会福祉協議会のご後援をいただいて、漢点字講習会を行います。

漢点字を学んで、漢字の世界に歩を進めたいと希望される視覚障害者の方、あるいはそのような方が周辺におられる方、そしてそのようなお子様をお持ちの親

御様、点訳・音訳活動から漢点字に関心をお持ち下さった皆様は、以下の要領でご受講下さい。お待ち申し上げます。

漢点字を全くご存じない方、大歓迎です。

主催… 横浜漢点字羽化の会

後援… 横浜市健康福祉局、横浜市教育委員会、横浜社会福祉協議会

講習の進め方… オリジナルのテキストに従って、通信制を基本に学んでいただきます。隔月にスクーリングを行います。楽しみながら勉強します。

日程… 第一回スクーリング、二〇一〇年五月五日（水）、14:00～16:00。当日は、オリエンテーションの予定です。その後、隔月にスクーリングを行って、漢字の世界に一步を踏み出していただきます。

会場… 横浜市ボランティアセンター・ボランティアコーナー（横浜市健康福祉センター八F、JR・市営地下鉄・桜木町駅下車）

お申し込み… 4月30日（金）までに、電話03-3613-3160か、Eメールでお願い致します。詳細はお申し込み時に。

②東京漢点字羽化の会

東京でも同様に、漢点字の学習会を行っております。ご参加をお待ちしております。

編集後記

▼岡田さんの大作「漢点字の散歩」のドイツ語編が終わりを迎えました。ドイツ語について予備知識の

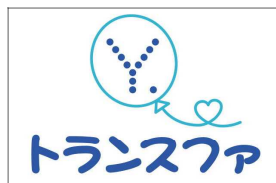
ない方にとってはちよつとわかりにくい内容だったかと思われませんが、岡田さんがいわれるように、点字をパターンとして受け止め、それがどんな意味を持つのかを考えてみるのもいいかと思います▼つまり、1ますか2ますで表された点字の略字は、それを形として認識した時に、頭の中ではそれに相当する一連のアルファベットが瞬時に思い浮かぶのでしょうか。ヨーロッパ言語は、いわゆる表音文字で表され、1つ1つの文字は意味を持たないといわれています。しかし、われわれが英語の文を読む時、目は1つ1つの単語の綴りをひとかたまりのパターンとして認識しています。5つも6つものアルファベットの文字のかたまりを、1つか2つの点字で表して、それがもとの文字のかたまりを表すものと認識されれば、触読で読む人にとって、とても能率的な方法だということとが容易に想像されます▼漢字や漢点字の成り立ちには、それぞれその意味の表すものの形や、読み方由来する音や、それらの組み合わせなど、いろいろの場合があります。これは個々の漢字の成り立ちを深く考えるには非常に大きな意味を持ちますが、実際に文章として読み取る時は、個々の漢字や熟語のパターンからその意味を直接認識しています。そこに、ドイツ語の略字と日本語の漢点字の共通点が見られるのでしょうか。(木下和久)

(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話: 045-263-0306

FAX: 045-263-0316

「うか」第78号 《表紙絵 岡 稲子》 回目の発行は4月15日です。

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://ukanokai.web.infoseek.co.jp>

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。